

2019年度 病院医学教育研究助成成果報告書

報告書提出年月日	2020年 4月 1日
研究・研修課題名	大学病院入院患者および介護施設並びに在宅患者の細菌感受性パターンに関する研究
研究・研修組織名(所属)	感染制御部
研究・研修責任者名(所属)	城 有美
研究・研修実施者名(所属)	城 有美

成果区分	<input type="checkbox"/> 学会発表 <input type="checkbox"/> 論文掲載 <input type="checkbox"/> 資格取得 <input type="checkbox"/> 認定更新 <input type="checkbox"/> 試験合格 <input type="checkbox"/> 単位取得 <input checked="" type="checkbox"/> その他の成果(研究経過)
該当者名(所属)	城 有美(感染制御部)
学会名(会期・場所)、認定名等	
演題名・認証交付元等	
取得日・認定期間等	
診療報酬加算の有無	<input type="checkbox"/> 加算有() <input type="checkbox"/> 加算無

目的及び方法、成果の内容① 目的

出雲地区のアンチバイオグラムを作成し、抗菌薬適正使用の推進を進める。

② 方法

当院入院の高齢者からカルバペネム耐性エンテロバクターやESBL産生大腸菌の検出は珍しくない。しかし、本院の高齢患者は免疫抑制剤の投与や化学療法施行中などの治療歴を有する患者が多い。そのため地域在住の高齢者に保菌される菌種を同定し、菌種や薬剤感受性を明らかにして、大学病院および地域の患者間での検出菌の相違も明らかにし、出雲地区アンチバイオグラム作成の基礎資料とする。

③ 成果

ケアセンターかんど、すぎうら医院に検体採取を依頼し、2019年11月から12月の間に14検体を回収した。

ほぼ全症例から大腸菌が検出されると予測していたが、菌が検出されたのは10検体で、大腸菌は3検体でのみ検出された。検出菌数が少なすぎるため研究期間を延長して検体を増やす方針とした。来年度も検体回収を継続する予定である。

第57回日本医療・病院管理学会学術総会では、当院の院内感染対策について報告した。また他の発表者によって、診療科毎に術後感染予防使用抗菌薬の頻度が異なることが報告された。